



連載「教育学入門」と『能力と発達と学習（教育学入門Ⅰ）』におけるテキスト異同（3）

松本，圭朗

(Citation)

研究論叢, 32:49-55

(Issue Date)

2026-06-30

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100505523>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100505523>



連載「教育学入門」と『能力と発達と学習（教育学入門Ⅰ）』 におけるテキスト異同（3）

松本 圭朗
(近畿大学)

第1節 はじめに

本資料は、勝田守一による雑誌『教育』での連載「教育学入門」（1962年～1963年）と、それをまとめた『能力と発達と学習』（1964年、国土社）のテキストの異同の整理によって、勝田の教育学構想の機微をとらえる手がかりを得ることを目的としている。

連載「教育学入門」は、次のようなかたちで掲載されている（以下、『能力と発達と学習』は「単行本」、連載「教育学入門」は「連載」と表記する）。

表1：「教育学入門」の連載一覧

1962年1月号 =138号	第1回 未来にかかわる時点で
1962年2月号 =139号	第2回 人間の能力をどのように考えるか（1）
1962年3月号 =140号	第3回 人間の能力をどのように考えるか（2）
1962年4月号 =141号	第4回 人間の能力をどのように考えるか（3）
1962年5月号 =142号	第5回 人間の能力をどのように考えるか（4）
1962年6月号 =143号	第6回 人間が成長するとはどういうことか
1962年9月号 =147号	第7回 人間が成長するとはどういうことか（2）
1962年10月号 =148号	第8回 人間が成長するとはどういうことか（3）
1962年11月号 =149号	第9回 人間が成長するとはどういうことか（4）
1962年12月号 =150号	第10回 人間が成長するとはどういうことか（5）
1963年3月号 =154号	第11回 人間の学習を指導する条件はなにか（1）
1963年4月号 =155号	第12回 人間の学習を指導する条件はなにか（2）
1963年5月号 =156号	第13回 人間の学習を指導する条件はなにか（3）
1963年6月号 =157号	第14回 人間の学習を指導する条件はなにか（4）
1963年8月号 =160号	第15回 人間の学習を指導する条件はなにか（5）
1963年9月号 =161号	第16回 人間の学習を指導する条件はなにか（6）
1963年10月号 =162号	第17回 人間の学習を指導する条件はなにか（7）

1963年11月 =163号	第18回 人間の学習を指導する条件はなにか（8）
1963年12月 =165号	第19回 人間の学習を指導する条件はなにか（9）

このうち、すでに、①「連載（第1～5回）」と「単行本（序章・第1章）」、②「連載（第6～10回）」と「単行本（第2章）」におけるテキストの異同を整理している（松本 2024, 2025）。本資料では、「連載（第11～15回）」と「単行本（第3章）」におけるテキストの異同を整理する。

引用文献

勝田守一(1964)『能力と発達と学習』国土社。
松本圭朗(2024)「連載「教育学入門」と『能力と発達と学習(教育学入門Ⅰ)』におけるテキスト異同(1)」『研究論叢』30号、89-100頁。
松本圭朗(2025)「連載「教育学入門」と『能力と発達と学習(教育学入門Ⅰ)』におけるテキスト異同(2)」『研究論叢』31号、35-42頁。

【凡例】

- 引用頁は [] 内に示した。
- 原則として、加筆修正がおこなわれた場合には「初版」欄の引用文に、削除がおこなわれた場合には「初出」欄の引用文に、下線を引いた。ただし、1文以上の削除がおこなわれた場合には「初版」欄に（削除）と記し、「初出」欄に下線は引かなかった。
- 原則として、促音と拗音の表記変更（例：

技りよう→技りょう）、漢数字の表記変更（例：十三→一三）、送り仮名の表記変更（例：驚ろく→驚く）、漢字の開き閉じの表記変更（例：附け加える→つけ加える）、読点の加筆・削除（例：社会のあり方に方向づけられながら→社会のあり方に、方向づけられながら）、括弧の表記変更（例：「」→『』）、傍点の加筆・削除（例：ほう^ゝ齒→ほう齒）、旧字体や異体字の変更（例：刺激→刺戟）は取り上げなかった。

4. 原則として、明らかな誤植や脱字は取り上げなかった。例えば、「等二次大戦」や「としてとして」である。

【付記】

本研究は JSPS 科研費 JP22K20295 の助成を受けた。

【資料紹介】 連載「教育学入門」と『能力と発達と学習（教育学入門Ⅰ）』におけるテキスト異同（3）
（松本圭朗）

初出 第11回 1963年 154号	初版 第3章
I [113]	1 学習の定義 [135]
単にことばのいいかえではなく、じっさいにその意味をとらえるためには、学習を、発達との関係を軸にしてみなくてはならないことは明かだろう。[113]	単にことばのいいかえでなく、じっさいにその意味をとらえるためには、学習を、発達との関係を軸にしてみなくてはならないことは明かだろう。[135]
（マウラー『学習理論とシンボル過程』による）。[113]	（参考文献①）[135]
このような「意味」の機能が、すでに一才半ぐらいの幼児に芽生えであることをピアジェは指摘しているし、私たちもそれをすでに引用した。[114]	このような「意味」の機能が、すでに一才半ぐらいの幼児に芽生えであることをピアジェは指摘しているし、私たちもそれをすでに引用した（第二章参照）。[137]
表象（それは元来、再び眼前に提示するということだ）が表象されるものの模倣であり、それを指示するということから意味の機能がはじまるのだ。[114]	表象（それは元来、再び眼前に提示するということだ）が表象されるものの模倣であり、 <u>表象されるものを指示するということから意味の機能がはじまるのだ</u> 。[137]
	〔参考文献〕 ①Mowrer, O. H.: Learning Theory and the Symbolic Processes. ②ケーラー『類人猿の知恵試験』（宮孝一訳）岩波書店 ③ランガー『シンボルの哲学』（近藤外訳）岩波書店 Langer, S. K.: Philosophy in a new Key. [138]
II [115]	2 学習と教育 [139]
母親が子どもに話しかけながら世話をするのは、人間に必然にあらわれる美しい行動だけれども、それは母親にとってことばであっても、子どもにとって固有の意味のことばであるわけではない。[115]	母親が子どもに話しかけながら世話をするのは、人間に必然にあらわれる美しい <u>そしてまた子どもの成長に影響をもつ</u> 行動だけれども、それは母親にとってことばであっても、子どもにとって固有の意味のことばであるわけではない。[139]
施設病などといわれるものがあるとすれば、おそらくそうした世話の仕方や扱い方（たとえば皮膚的な微妙な指触の仕方の <u>厚薄</u> ）によるものと考えられるだろう。[115]	施設病などといわれるものがあるとすれば、おそらくそうした世話の仕方や扱い方によるものと考えられるだろう。[139]
（『人間の教育』）。[116]	（参考文献①）。[140]
主体が環境との相互作用の中で、もって生まれた刺激と反応の傾向を土台としながら、適応の努力をくりかえす過程で、習性を変容し、新しい能力を形成するのが学習といわれるものなのだ。[116]	主体が環境との相互作用の中で、もって生まれた刺激と反応の傾向を土台としながら、適応の努力をくりかえす過程で、習性を変容し、新しい能力を形成するのが学習といわれるものなのである。[140]
たとえば、他人の行動が模倣を誘うばあいには、模倣できる内部的要因がある程度に成熟していなくてはならないのだ。[116]	たとえば、他人の行動が模倣を誘うばあいには、模倣できる内部的要因がある程度に成熟していなくてはならないのだ。[141]
しかし、 <u>いうならば</u> 、できる模倣しか模倣はしないものだ。[116]	しかし、できる模倣しか模倣はしないものだ。[141]
学習を媒介にして発達に影響を及ぼす教育という考え方を、別のいい方をすれば、教育とは、学習の指導だといいかえることもできる。[117]	学習を媒介にして発達を及ぼす教育という考え方を、別のいい方をすれば、教育とは、学習の指導だといいかえることもできる。[141-142]
	〔参考文献〕 ①フレーベル『人間の教育』（岩波次男訳）明治図書 ②ヴィゴツキー『思考と言語』（柴田義松訳）明治図書 [142]
III [117]	3 教育の条件 [142]
しかし、もし、二人の乳児の他の条件が同じであつたら、このような母親の態度で扱われた乳児が、これとはちがって安定した態度で扱われた子どもにくらべて、情動の安定度に欠けていくと想像してよいだろう。[117]	しかし、もし、二人の乳児の他の条件が同じであつたら、このような母親の態度で扱われた乳児が、これとはちがって安定した態度で扱われた子どもにくらべて、 <u>情動の安定度で劣るようになる</u> と想像してよいだろう。[142-143]
そしてそこでは、未来の諸能力を担う土台がしっかりとつくられるという意味を内在させながら、養育は、子どもの現在の（もちろん身近かな未来をそこに含んで）健康や気嫌のよさや性格の明るさを目ざして <u>養育は遂行されるのだ</u> 。[118]	そしてそこでは、未来の諸能力を担う土台がしっかりとつくられるという意味を内在させながら、養育は、子どもの現在の（もちろん身近かな未来をそこに含んで）健康や機嫌のよさや性格の明るさを目ざして遂行されるのだ。[143]
二才の娘が難聴で、その言語発達が遅れていることを大へん心配して相談にやって来た若い親があった。[118]	二才の娘が難聴で、その言語発達が遅れていることを大へん心配して相談によって来た若い <u>母親</u> があった。[144]
（園部・山住『日本の子どもの歌』）[119]	（参考文献②）[145]
ルソーはいつている。子どもがことばを覚えたら、その欲求を泣きわめきの叫びでなく、ことばで伝えさせる訓練をせよと。ここには真実が含まれている。[119]	（削除）

そして、この努力が喜びであるようにするのが指導なのだ。 [119]	そして、その努力が喜びであるようにするのが指導なのだ。 [146]
	〔参考文献〕 ①Mowrer, O. H.: Learning Theory and the Symbolic Processes. ②園部・山住『日本の子どもの歌』(岩波新書) [146]
第12回 1963年 155号	第3章
IV [119]	4 人間への成長 [146]
考えようによれば、アランのいったように、人間というものは、一生ことばの意味を追求して終るのであり、それが思考することだともいえるだろう。[120]	考えようによれば、アランのいったように、人間というものは、一生自分の話すことばの意味を追求して終わるのであり、それが思考することだともいえるだろう。[148]
政治家が「戦力なき軍隊」といった不誠実を批判するものは、さまざまな知的な流行的新造語に対しても厳重な監視をすることを怠ることはできない。[120]	(削除)
それは、かれらがどういう教育を受けてきたのかということの意味するのである。[120]	それは、かれらがどういう教育を受けてきたのかということとかかわりをもつのである。[148-149]
	〔参考文献〕 ①ルソー『エミール』(岩波文庫) ②ピアジェ『数の発達心理学』(遠山・外訳) 国土社 [149]
ある種の猿が三十数種のことになった発声を、その内的状態を告知するのに使用していることも明らかにされている。[121]	猿が三十数種のことになった発声を、その一定の内的状態を告知するのに使用していることも明らかにされている。[150]
ルソーがいったように、ことばを覚えたての子どもは、いままでの泣き声のかわりに、その欲求をあらわすのにことばを使うけれども、その機能は全く同じだ。このばあいには、ことばはまだ人間的なものへの移行の状態にある。[121]	(削除)
けれども、あの形象は、馬の印象と、それに「竜のごとし」と、偉大な長老の顔貌をいったその印象とを結合しつつ、理想化してつくられたものを祖として、図案化したものである。[122]	けれども、あの形象は、馬の印象と、それに「竜のごとし」といわれた偉大な長老の顔貌のような印象とを結合しつつ、理想化してつくられたものを祖型として、図案化したものである。[151]
もちろん、レンズの例は決して有効にばかりははたらかないで、大きな誤解を引きおこす危険がある。[123]	もちろん、レンズの例は決して有効にばかりはたらかないで、大きな誤解を引きおこす危険がある。[152]
しかし、ここで重要なことは、印象や表象をことばによって再現することは、子どもが社会的なものである言語の規則を学びながら、それらを統一にもたらす努力によって、自己を意識的な存在に高めるということを知ることなのである。[123]	しかし、ここで重要なことは、印象や表象をことばによって再現することは、子どもが社会的なものである言語の規則を学びながら、それらを統一にもたらす努力によって、自己をそれだけ意識的な存在に高めるということを知ることなのである。[152]
	〔参考文献〕 ①ケーラー『類人猿の知恵試験』(宮孝一訳) 岩波書店 ②松田道雄『新しい保育百科』新評論 ③乾孝『児童心理学入門』新評論 [153]
VI [123]	6 なにを教えるか [153]
しかし、ここで重要なことは、前にすでにみたように、発達が終わったところに学習の指導がはじまるのが正しいのではなく、発達がはじまるところに、学習が開始されるということなのだ。[124]	しかし、ここで重要なことは、前にすでにみたように、発達が終わったところに学習の指導がはじまるのが正しいのではなく、発達がはじまるところに、学習が開始されなければならないということなのだ。[154]
それは、もっと吟味を必要とするらえ方ないしはいい方だと思われる。[124-125]	それは、もっと吟味を必要とするらえ方またはいい方だと思われる。[156]
	〔参考文献〕 ①ヴィゴツキー『思考と言語』(柴田義松訳) 明治図書 ②勝田守一『教育学』青木書店 ③講座『現代教育学』2 岩波書店 ④文部省『学習指導要領』昭和三三年版 [156-157]
第13回 1963年 156号	第3章
VII [117]	7 教育と経験 [157]
なにを教えるかよりも、どう教えるかが、近ごろの教員養成大学の題目になっていて、そのために教師のほんとうの学力が不足し、国民のための教育はその質を低下しているとアメリカのスウィーギーは自国の状態を批判している(注1)。[117]	なにを教えるかよりも、どう教えるかが、近ごろの教員養成大学の題目になっていて、そのために教師のほんとうの学力が不足し、国民のための教育はその質を低下しているとアメリカのスウィーギーは自国の状態を批判している(参考文献①)。[157]

〔資料紹介〕 連載「教育学入門」と『能力と発達と学習（教育学入門Ⅰ）』におけるテキスト異同（3）
（松本圭朗）

形の無統制が選択の自主性にとってかわり、じっさいには教科書や参考書に盛られた知識をひそかに教科内容として覚えこませるほかはなくなってしまう。[118]	形の <u>上</u> の無統制が選択の自主性にとってかわり、じっさいには教科書や参考書に盛られた知識をひそかに教科内容として覚えこませるほかはなくなってしまう。[159]
そういう学習に夢中になっている子どもにむやみに寛容でいいということではない。[119]	<u>しかし</u> そういう学習に夢中になっている子どもにむやみに寛容でいいということではない。[160]
（注一）『独占資本社会と教育』（『世界』三八年四月号）[119]	（削除）
VIII [119]	（削除）
この問題に真向うから立ち向うのは次章にしたい。[121]	この問題に真向うから立ち向かうのは後にしたい。[163]
	〔参考文献〕 ①スウィーザー「独占資本社会と教育」（『世界』一九六三年四月号） ②講座『現代教育学』5 岩波書店 ③文部省『新しい教育課程』 ④Bestor, Jr.: <u>Anti-Intellectualism in the Schools.</u> [163-164]
IX [121]	8 文字記号と科学的認識 [164]
科学とは、人類がその生存にかかわって直面する諸問題を解決した努力の過程で、自然と社会（人間それ自身をも含めて）の實在について試みる合理的思考とその結果として所有した知識の組織のことである。[121]	科学とは、人類がその生存にかかわる諸問題を解決する努力の過程で、自然と社会（人間それ自体をも含めて）の實在について試みる合理的思考と、その結果として所有した知識の組織のことである。[164]
科学的認識の発達とは、実在とかかわりながらもつ組織された知識の意味を理解しながら、それを所有する過程である。[121]	科学的認識の発達とは、 <u>実在とのかかわり</u> を持ちながら組織された知識の意味を理解し、それを所有する過程である。[165]
人類学者たちは、太古の人類と現代の私たちの間には、生理学的・解剖学的な身体構造上の差異はほとんどみられないといっている。[122]	人類学者たちは、 <u>数千年前</u> の人類と現代の私たちの間には、生理学・解剖学的な身体構造上の差異はみられないといっている。[165]
第 14 回 1963 年 157 号	第 3 章
XI [114]	（削除）
先にも引いたように、フロングが区別したこの発明的知能と儀式的（シンボリック）な思考との統一が科学の維持と発展とを可能にするのである。[114]	先にも引いたように（第二章）、フロングが区別したこの発明的知能と儀式的（シンボリック）な思考との統一が科学の維持と発展とを可能にするのである。[168]
しかし、概念のもとになる表象は同時に行為の予見であり、社会的労働の協力を可能にするために、伝達できる共通性をもつて形成された観念である。[114]	しかし、概念のもとになる <u>知覚</u> 表象は同時に行為の予見であり、社会的労働の協力を可能にするために、伝達できる <u>共通の意味</u> をふくんで形成された観念である。[168]
世界解釈は理論であり、それは世界の實在の反映を歴史的に発展してきた人間の記号体系を通して、認識されたものなのだ。[115]	世界解釈は理論であり、それは世界の實在の反映を歴史的に発展 <u>させて</u> きた人間の記号体系を通して、認識されたものなのだ。[168]
私が前節で「科学の担い手は全体としての人間なのである」といったのは、科学を成立させるこの二つの要因が、傾向として、現実には分裂して、それぞれの別の担い手によって支えられているということをいったのである。[115]	私が前段で「科学の担い手は全体としての人間なのである」といったのは、科学を成立させるこの二つの要因は、傾向として、現実には分裂して、それぞれの別の担い手によ <u>つて</u> 支えられているということをいったのである。[168]
古代や近世の書記と異なるところは、近代科学の書記たちは、人間知識の本来の実践性を自覚しながら、実験と検証とを重んじていることである。[115]	古代や <u>近代</u> の書記と異なるところは、近代科学の書記たちは、人間知識の本来の実践性を自覚しながら、実験と検証とを重んじていることである。[168]
これに対して、現実には物をつくり出す労働にしたがうものは、その肉体の筋力の力と、経験と熟練によつて生産することを余儀なくされるようになった。[115]	これに対して、現実には物をつくり出す労働にしたがうものは、その肉体の筋力と、経験と熟練によ <u>つて</u> 新しい事物を生産する。[169]
かれらは、書記のしごと、つまり、文字記号と論理の形式的な操作には遠ざかり、「考えると頭が痛くなる」ような習性を強えられる。[115]	かれらは、書記のしごと、つまり、文字記号と論理の形式的な操作には遠ざかり、「考えると頭が痛くなる」ような習性をもっている。[169]
（前号参照）。[115]	（削除）
いまでもそれでよいのだろうか。[116]	それでよいのだろうか。[170]
いぜんとして、私たちは、科学を担うもの、その所有者は人類であるということの意味を考えなくてはならない <u>のだ</u> 。[116]	いぜんとして、私たちは、科学を担うもの、その所有者は人類であるということの意味を考えなくてはならない。[170]
	〔参考文献〕 ①マルクス『資本論』第一巻 ②Marrou, H.I.: <u>Histoire de L'Éducation dans L'Antiquité.</u> [170]
XI [116]	9 科学の諸類型 [171]

しかし、同じ自然科学といっても、数学と物理学と化学、そしてさらに生物学や生理学との間には、その性格の上でちがいがあ る。[116]	しかし、同じ自然科学といっても、数学と物理学と化学、そしてさらに生物学との間には、その性格の上でちがいがあ る。[171]
けれども、よく考えてみると社会科学は、事象の生産、つまり労働の過程でとらえる事物の認識との関係という点では直ちに自然科学と性質が同じだとはいっていないのだ。[116]	けれども、よく考えてみると社会科学は、事物の生産、つまり労働の過程でとらえる事物の認識との関係という点では直ちに自然科学と性質が同じだとはいえない。[171]
天体の運行、雨や風や日照りのような自然現象、すべては、人間の力で変えることのできない法則に支配されている。[116]	天体の運行、雨や風や日照りのように自然現象、すべては、人間の力で変えることのできない法則に支配されている。[171]
おそらく、その学的反省の前に、神話の宇宙解釈から系統的な宇宙発生論が技術や自然認識を取りこみながら、組織されたであろう。[117]	おそらく、その学的反省の前に、神話の宇宙解釈から系統的な宇宙発生論が技術の知識や自然認識を取りこみながら、組織されたであろう。[172-173]
XII [117]	(削除)
十八世紀の後半に経済学は「道徳哲学」の教授アダム・スミスによって近代的社会科学の先駆として成立してきた。[118]	十八世紀の後半に経済学は「実践哲学」の教授アダム・スミスによって近代的社会科学の先駆として成立してきた。[173]
マルクスの科学の成立と、リカードの経済学やダーウィンの生物学上の進化論と関係の深いことは明らかだし、それだけでなく、ドイツ観念論哲学の歴史的発展の意識とフランス社会主義の理想がそこに統一されているといわれている。[118]	マルクスの科学の成立が、リカードの経済学やダーウィンの生物学上の進化論と関係の深いことは明らかだし、それだけでなく、ドイツ観念論哲学の歴史的発展の意識とフランス社会主義の理想がそこに統一されているといわれている。[174]
科学は理想や価値をそれ自身で定位しない、それを語るのものはや科学ではない、と実証主義者たちは説いている。[118]	科学は理想や価値をそれ自身で定位しない、 <u>事実を説明するのみなだ</u> 。理想や価値を語るのものはや科学ではない、と実証主義者たちは説いている。[174]
	〔参考文献〕 ①三枝博音『技術の哲学』岩波書店 ②アリストテレス『ニコマコス倫理学』(高田三郎訳) 河出書房 [175]
X III [119]	10 科学学習と人間の発達 [176]
科学は、現在に生きる国民、すなわち人間が人間に成長する欠くことのできない条件として、その学習を要求している。[119]	科学は、現在に生きる国民、すなわち人間が人間に成長するための欠くことのできない条件として、その学習を要求している。[176]
「全面発達」の思想を非難するものが、不可能な幻想としてこれを斥けるのは全く誤解にすぎない。[119]	しかし、「全面発達」の思想を不可能な幻想としてこれを斥けるのは全く誤解にすぎない。[176]
私はどちらかといえば、同じまちがいでも前者の方がまだ救いがあると考える。[119]	私はどちらかといえば、同じまちがいでも前者の方がまだ <u>子ども</u> にとって救いがあると考える。[177]
そして、そのことを正しくとらえないかぎり、私たちは、「科学を教える」、あるいは「科学を学ぶ」ということの意味を正しく理解することはできないだろう。[119]	そして、そのことをとらえないかぎり、私たちは、「科学を教える」、あるいは「科学を学ぶ」ということの意味を正しく理解することはできないだろう。[177]
第 15 回 1963 年 160 号	第 3 章
XII [120]	(削除)
概念を操作して、その関係をつくり直し、そうすることで概念に新しい意味を与えていくことに、その生涯を捧げた人々によって「科学」がつくりあげられてきた。[120]	概念を操作して、その関係をつくり直し、そうすることで概念に新しい意味を与えていくことに、その生涯を捧げた人々によって「科学」が組織されてきた。[177]
発明は労働の仕方、生産の方法を徐々に変え、労働の社会的な関係を考えていく。[121]	発明は労働の仕方、生産の方法を、さらに労働の社会的な関係を変えていく。[178]
しかし、この知識をことばに置きかえ、文字に定着させる社会は、すでに国家を成立させ、しばしばのべてきた文字と記録の専門家である書記を生み出すのである。[121]	しかし、この知識をことばに置きかえ、文字に定着させる社会は、すでに国家を成立させ、しばしばのべてきた <u>文字の記録</u> の専門家である書記を生み出すのである。[178]
学者は、ギリシャ語系のラテン語では有閑の人という意味であった。[121]	学者は、ギリシア語原では有閑の人という意味になる。[179]
しかし、アリストテレスが気づいたように、推論は確実な前提を必要とする。[122]	しかし、すでにほかならぬアリストテレスが気づいたように、推論は確実な前提を必要とする。[180]
その後の「哲学」の歴史は知的体系の自己完結性をまもるために、自証の「真理」をとらえる確実性の探求の無益な試みの歩みであった。[122]	(削除)
	〔参考文献〕 ①アリストテレス『ニコマコス倫理学』(高田三郎訳) 河出書房 ②エンゲルス『自然の弁証法』岩波文庫 [180]
X III [122]	11 労働経験と文字記号の結合 [180]
その技術は身体や腕の中に刻印される経験によって磨かれ、労働の共同とその経験の伝達とは、口数の少ないことばと身振り	その技術は身体や腕の中に刻印される経験によって磨かれ、労働の共同とその伝達とは、口数の少ないことばと身振り

【資料紹介】 連載「教育学入門」と『能力と発達と学習（教育学入門Ⅰ）』におけるテキスト異同（3）
（松本圭朗）

でこと足りてきた。[122]	足りてきた。[180]
しかし、ここには、心理学者が子どもの「実用的知能」（あるいは正確には「状況の知能」）について、「その行動のうちに物理学の法則の経験的な知識としての素朴な物理学が存在するようになる」（ヴィオー『知能』文庫クセジュ）というような「素朴な物理学」がある。[122]	しかし、ここには、心理学者が子どもの「実用的知能」（あるいは正確には「状況の知能」）について、「その行動のうちに物理学の法則の経験的な知識としての物理学が存在するようになる」（ <u>参考文献①</u> ）というような「素朴な物理学」がある。[180-181]
「素朴」というのは、必ずしも適当ではないが、それは、 <u>実在に身体をもってはたらきかけながら、実在ともども労働の結果を必然的過程にしたがって生み出す法則の体認</u> なのである。[122]	それは、身体をもって実在にはたらきかけながら、実在ともども労働の結果を必然的過程にしたがって生み出す法則の体認なのである。[181]
発明と発見の契機がある。[122]	発明発見の契機がある。[181]
近代科学が数学を媒介として発展したのは、その文字記号を、機械のメカニズムの論理として磨きあげると同時に、実践を知識の領域に取りこむ可能性を与えることになった。[122]	近代科学が数学を媒介として発展したのは、その文字記号の <u>体系</u> を、機械のメカニズムの論理として磨きあげると同時に、実践を知識の領域に取りこむ可能性を与えることになった。[181]
したがって、労働と学習とは職業の準備という方向でも結びついている。[123]	したがって、労働と学習とは職業の準備という方向でも結びつけている。[182]
	<u>〔参考文献〕</u> ①ヴィオー『知能』（村上仁訳）白水社 ②ワロン『認識過程の心理学』（滝沢武久訳）大月書店 [183]
XIV [124]	12 科学への要求 [184]
しかし、私は学校での学習のせいでもあるが、しかし、創造性を多くの青年に保障しなかったのも学校だというのが正確な解答ではないかと考える。[125]	私は学校での学習のせいでもあるが、しかし、創造性を多くの青年に保障しなかったのも学校だというのが正確な解答ではないかと考える。[186]
創造性に富む教師がそのことを身をもって感じていることを私は知っている。[125]	創造性に富む教師は、 <u>そのことを身をもって感じてとっている</u> であろう。[186]
それはむしろ社会の全体が既知の地平にとりこまれて、未来への方向を定かにつかみえない状況で、新しい地平を開く能力である。[125]	それはむしろ社会が既知の地平にとりこまれて、未来への方向を定かにつかみえない状況に <u>あるとき</u> 、新しい地平を開く能力である。[186]
現代の社会、つまり子どもたちがそこで生活する社会は、知識と技術によって機械や器具や施設やそもっとだいいな社会的諸関係や世界への感応の仕方を、 <u>文化人類学者が、一般に「文化」とよぶものとして所有する社会である</u> 。[126]	現代の社会、つまり子どもたちがそこで生活する社会は、知識と技術によって機械や器具や施設やそもっとだいいな社会的諸関係や世界への感応の仕方を、一般に「文化」とよば <u>れているものとして所有する社会である</u> 。[187]
	<u>〔参考文献〕</u> ①斎藤喜博『授業入門』国土社 ②ブルーナー『教育の過程』（鈴木・佐藤訳）岩波書店 Bruner, J. S. : The Process of Education. [187]